東京未来大学
研究推進ニュースレター
Vol. 23

東京未来大学
研究推進委員会
令和 8(2026)年 3 月 31 日発行

科研費ニュース

令和 8(2026)年度東京未来大学の科研費申請状況は以下の通りです。

			令和8年度						令和7年度					
			こども（保育・教育）		こども（心理）		モチベーション行動科学部		こども（保育・教育）		こども（心理）		モチベーション行動科学部	
科学研究費	特別推進研究		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学術変革領域研究（A）公募研究		0	0	1	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0
	学術変革領域研究（B）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究（S）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究（A）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究（B）		2	20,066	1	19,998	2	20,785	0	0	1	19,715	0	0
	基盤研究（C）		4	17,633	6	29,719	2	7,360	4	14,179	3	14,790	2	5,890
	挑戦的研究	開拓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		萌芽	1	4,026	1	4,999	0	0	0	0	1	4,998	0	0
	若手研究		1	4,778	2	9,970	0	0	1	4,931	1	5,000	0	0
	研究活動スタート支援		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	奨励研究		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別研究促進費			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研究成果公開促進費			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別研究員奨励費			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際共同研究加速基金			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
件数 ／ 金額			8	46,503	11	66,686	4	28,145	5	19,110	6	44,503	2	5,890
合計件数			23 件						13 件					
合計金額			141,334 （千円）						69,503 （千円）					

令和 8(2026)年度の科研費申請状況について，「学術変革領域研究(A)」1 件，「基盤研究(B)」5 件，「基盤研究(C)」12 件，「挑戦的研究」2 件，「若手研究」3 件の計 23 件の申請がありました。申請件数と申請金額は，令和 7 年(2025 年度)よりも多くなっています。「研究種目別」の申請件数を見ると，昨年度と同様に「基盤研究(C)」が最も多く，次いで「基盤研究(B)」となっています。

各研究種目の目的・内容の詳細は，以下「日本学術振興会」ウェブサイト内「科学研究費助成事業(科研費)」の「制度概要」ページをご覧ください。公募開始日・提出期限は研究種目により異なりますのでご注意ください。今後も多くの積極的な科研費申請をよろしくお願いします。

▸ 日本学術振興会 ＞ 科学研究費助成事業（科研費）＞ 制度概要 ＞ 研究種目・概要

（URL）https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/01_shumoku/index.html

特別企画

特別企画として、「メンタルヘルス岡本記念財団研究・活動助成」を受賞された藤後悦子先生に、研究内容についてお話を伺いました。

Q1　受賞された研究テーマと内容について教えてください。

研究テーマは、「地域社会や通信制高校などにおける健康教育を通した共生社会の実現に向けて」です。この研究は、モチベーション行動科学部の山極和佳教授と一緒に約 6 年前から行っている研究の一環です。研究テーマは、多汗症を切り口としながらも、心と体の健康に関する啓発やインクルーシブな環境について考えています。今までにも何度か助成金をいただき、調査研究を行いながら、同時に多汗症に関するパンフレットを学生と作成したり、啓発活動のためのパンフレット作成や紙芝居、絵本作成などを行ってきました。

公益法人メンタルヘルス岡本財団は、森田療法に造詣が深い財団法人です。私の専門が森田療法であるため、森田療法の発展も視野に入れながら申請書を作成し、助成金を頂いております。

Q2　その研究テーマに至った経緯を教えてください。

私の身内が多汗症だったことと関係します。私自身あまり汗をかかない方なので、相談されても「汗ぐらい・・・」という思いがどこかにあったのだと思います。しかし、話を聞いていく中で、これは思った以上に大変な疾患だと実感しました。また多汗症は、10 人に 1 人とも言われ、障害者総合支援法で、難病として認定されていることを知りました。多汗症や汗についていろいろと調べ始めてみたところ、外科的な研究は多かったのですが、心理学的な研究はあまり見当たらず、山極先生にお声がけして一緒に研究と啓発活動をスタートしました。

Q3　今後の展望などについてお聞かせください。

2024 年に「誰にも言えない汗の悩み（福村出版）」を山極先生と出版しました。これをきっかけに、今年度は NHK クローズアップ現代に出演したり、岡本財団の森田療法と多汗症という動画映像に出演したりと、少しずつ私たちの活動も広がっています。

今後は、本学の学生と一緒に汗の困りごとなどを安心して話せる座談会を企画したり、企業と連携して機能的な商品開発などを予定しています。

研究を基盤に置きながら、科学者―実践家モデルとして多汗症を切り口としながらも、多汗症に留まらず健康教育を通して多くの方に心と体の健康について考えて頂ける機会を作りたいと思っています。そして、コミュニティ心理学の視点からも、生物・心理・社会モデルの中の、社会モデルにも働きかけ、誰もが安心して過ごせるインクルーシブな環境が実現できることを心より願っています。

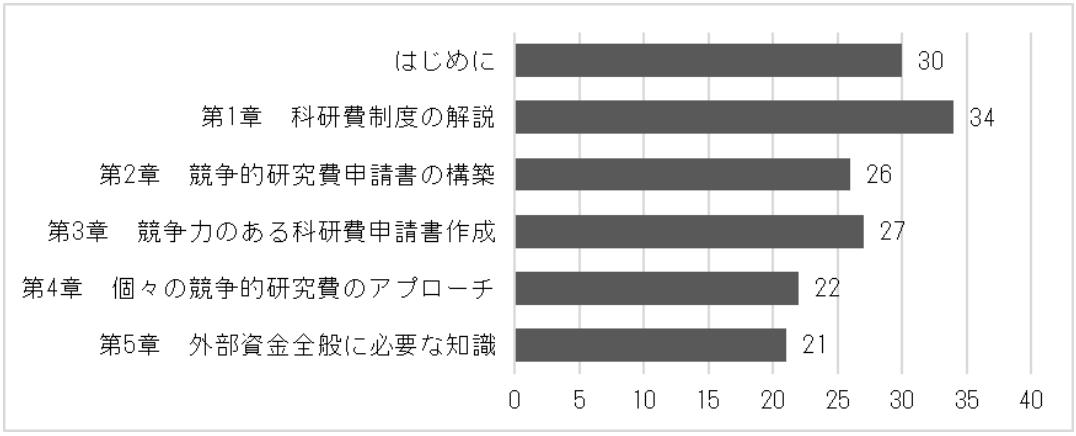
藤後悦子先生，ご協力大変ありがとうございました。

研究推進員会　動画研修のアンケート結果

研究推進委員会では，2025 年 5 月 29 日～12 月 16 日にかけて，動画教材を用いた研修を実施しました。
合計 50 件の回答が集まりました。ご協力ありがとうございました。以下に，一部の調査結果を掲載します。

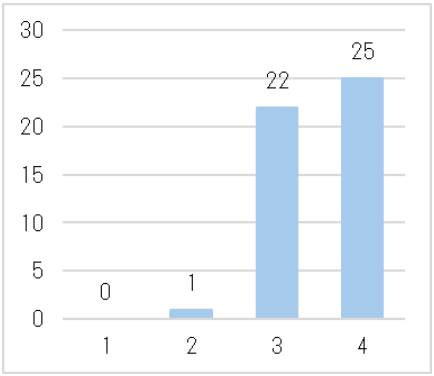
- 視聴内容

　昨年よりも「第 4 章 個々の競争的研究費のアプローチ」や「第 5 章 外部資金全般に必要な知識」を視聴する人が増えていました。

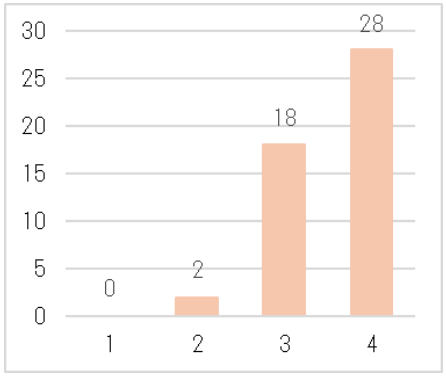


- 動画研修の「満足度」「興味の程度」「役立ち度」の結果

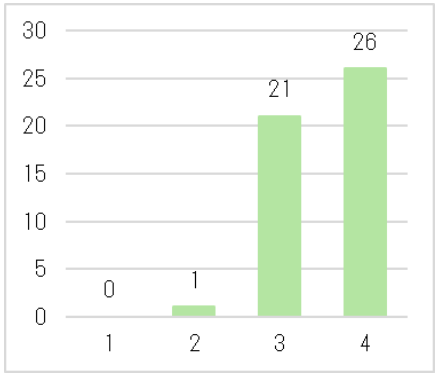
　動画研修の「満足度」（1：満足していない ～ 4：満足した），「興味の程度」（1：興味を持たなかった ～ 4：興味を持った），「役立ち度」（1：役に立たなかった ～ 4：役に立った）は，どれも昨年と同様の傾向でした。



「満足度」



「興味の程度」



「役立ち度」

- 全体について

　結果を見てみると，今年度の研修の「満足度」に対して，満足していると回答した人の割合が 98%で，全体として満足度が高いことがわかりました。「興味の程度」については，興味があるとした回答の割合が 96%でした。また，「役立ち度」（役に立ったか否か）についても，役に立ったと回答した人の割合が 98%でした。なお，視聴した章は昨年よりも「第 4 章」や「第 5 章」が増加していることから，昨年度の視聴を踏まえて次の段階を視聴したものと想定されます。

　全体的に肯定的な評価がなされていることが確認できました。興味が持てる内容で，また，役に立つと思ったことから，満足度が高くなったことと思われます。なお，昨年度よりもさらに全体として肯定的な評価でした。自由記述の内容からは，具体的な説明が参考になった，細かく分かれていて興味のあるところを見ることができたのが良かった，といった点での肯定的な意見が散見されました。

　これからも，可能な限り，研究を行うにあたり有用な環境を整えていけるよう，委員会運営を行っていく予定です。引き続き，当委員会へのご協力をよろしくお願いします。

令和 7(2025)年度 東京未来大学特別研究助成金(研究費加算)研究成果報告会

開催日：令和 8(2026)年 3 月 4 日(水)
時　間：10 時 30 分　塚本学長挨拶
　　10 時 35 分　発表　　非心理系（B327 教室）／心理系（B225 教室）

令和 8(2026)年 3 月 4 日(水)に，令和 7(2025)年度東京未来大学特別研究助成金(研究費加算)研究成果報告会が開催されました。午前 10 時 30 分から塚本学長によるご挨拶に続き発表が行われました。当日の発表件数は全 10 件の予定でしたが，発表者の都合により全 9 件となりました。

今回ご発表いただいた先生方のお名前と申請課題(発表タイトル)を以下，紹介いたします。また，この発表会における口頭発表以外の特別研究助成金（研究費加算）研究テーマや概要を紹介いたします。

プログラム

▸ 非心理系プログラム（B327 教室）　　司会：宅間雅哉

氏　名	申請題目
鈴木 哲也	ドイツにおける環境教育の多面的分析―主に景観、エネルギー、生物、食に注目して―
髙橋 文子	教師教育における「芸術知」の体系的解明―方法論的認識に基づくプログラム開発―
紙本 裕一	小学校教職志望学生の ICT を用いた算数指導能力育成の研究
白石 雅紀	マイノリティの複合と個人内のマイノリティ相克の経験の語りの TEM 図による描出
高橋 純一	教員養成段階における社会科の学習評価力量に関する研究 ―グループ・モデレーション演習に着目して―

▸ 心理系プログラム（B225 教室）　　司会：鈴木公啓・小谷博子

氏　名	申請題目
大橋 恵	イギリスにおける小中学生の課外活動について（動画上映）
藤後 悦子	不登校支援へのインクルーシブスポーツの活用―オランダの先駆的事例をもとに―
鈴木 公啓	身体もしくは食に関する種々の研究
小谷 博子	医療的ケア児とその家族の現状と課題
井梅 由美子	中学受験をめぐる親子の葛藤と教育マルトリートメント

その他の特別研究助成金（研究費加算）研究　テーマおよび概要

※ご報告いただいた原文を掲載しております。

氏名	申請題目・研究内容
石橋 里美	従業員の達成志向的モチベーションに関する個人別態度構造分析
	ホワイトカラー中間管理職者を対象に、達成志向的モチベーションに関する PAC 分析を行った。その結果、長期プロジェクト業務の遂行過程では、制御焦点理論における促進焦点および予防焦点の双方が活性化することが示唆された。
磯 友輝子 小林 寛子 埴田 健司	通信制大学に在籍する学生の自己調整学習に関する調査
	通信制大学に在籍する学生を対象に Web 調査を実施し，自己調整学習に関わる学習観・学習方略・ソーシャルサポートが学校適応感や学業成績知覚に及ぼす影響を検討した。
今井 康晴	ペスタロッチの受容過程に関する一考察―平成時代を中心に―
	本研究は我が国のペスタロッチの受容の変遷について平成時代を中心に明らかにした。また研究書、翻訳ではなく、子ども雑誌、児童書、偉人伝、事典などにおけるペスタロッチの在り方について考察した。
大村 美菜子	小学生におけるルッキズムと教育との関連
	本研究の結果、小学生の醜形恐怖心性は、容姿への関心、否定的経験、美容医療志向、外見による他者判断の自覚と関連していた。一方、保護者の美容医療への賛否との直接的関連は認められなかった。
荻野 昌秀	発達障害等に関する保育者研修の効果検証研究
	保育者の専門性向上を目的に年 3 回の研修を実施した結果、行動に関する知識と保育効力感が有意に向上した。今後はオンライン化や対象児の変化に伴う効果の検証を行い、プログラムのさらなる改善を図る予定である。
郭 潔蓉	多文化経営時代における組織の多様性の受容に関する調査
	本研究は外国人雇用における組織の多様性の受容に関し、馬越(2008)の[Y=aX]モデルを用いて変数を設定し、web 調査を通して同モデルの検証を行い、組織が多様性を受容するにあたり、どのような施策が効果的なのかを研究した。
川口 めぐみ	「人の本質を見抜く」は認知処理か感情処理か ―アイトラッキングを用いた注意と瞳孔の変化からの分析―
	相手が信頼できるか否かを判断するとき，我々は相手の何を見るのか。相手を信じ，信頼し，結果，騙される人の認知や注意の特性はあるのかを，アイトラッキングを用いて実験を行いその傾向を明らかにした。
越川 葉子 岩井 真澄	「子ども主体」の保育を構想する保育者の認識に関する実証的研究
	「子ども主体」の保育が言説や実践において、どのように構想されているかを検討するため、軽井沢風越学園への視察訪問と、次期要領・指針の改訂と「幼保小の架け橋プログラム」に関する先行研究の検討を行った。

氏名	申請題目・研究内容
小林 久美	ドイツにおける環境教育と食教育の関係について
	ハノーファーとベルリンにおいて、総合学校の訪問視察を行った。また、生物教育園の食生活の内容などのプログラムに参加した。ドイツの大学生 106 人から環境意識や行動のアンケートを回収し、集計を行った。
小林 祐一	総合的な学習の時間における SDGs カリキュラムに関する考察 ～社会科副読本の分析を通して～
	仙台市と海岸線にわたる震災遺構及び防災センターの視察を実施した。今後は、これらの資料、情報、体験で得た知見を学習者に還元できるようなカリキュラムを作成する予定である。
島内 晶	高齢者の自己に対する認識と精神的健康との関連について
	高齢者の記憶の自己認識と精神的健康の関連について検討を行った結果、周囲から記憶の失敗を指摘され不安を感じる事等が、精神的健康度の低さと関連し、本人の内面に配慮した周囲の環境調整の必要性が示された。
高橋 一公	企業におけるシニア人材活用に関する基礎的研究
	ミドルシニアの就労意欲と職務満足度およびワーク・エンゲイジメントとの関係について調査をおこなった。その結果、就労意欲が高いと自覚している群では職務満足度，ワーク・エンゲイジメントが高いことが示された。
高橋 純一	日本国憲法における障害者の権利に関する一考察
	本研究では、日本国憲法の平等権との関連から障害者の権利条約で保障されている内容について、中学校社会科公民的分野の複数の教科書の記述を検討し、その反映の度合いを調査した。その結果、合理的配慮の記述が未だ反映されていないという課題が明らかになった。
宅間 雅哉	英語学(史的研究)を出発点とするイングランド地名の学際的研究
	″Mist hill″が語源とされる Devon 州 Misdon を対象に学際的研究を推進中である。2025 年度は気象学的研究の成果として、同地は教区教会所在地 Inwardleigh よりも、年間を通して mist/ fog の発現が予報される日数・総時間数が多いことが明らかになった。
田中 真奈美 飯田 未希 ウォント盛香織 金子 龍司	女性たちはなぜ南洋に向かったのか―戦前・戦中の女性の移動と南洋研究の再考
	戦前・戦中に海外へ移住した日本人女性について、事情や背景、当時の生活環境や現地での職業等を明らかにすることを目的に、多くの日本人が移住したハワイと引き揚げ後の入植地の一つである北原尾の調査を行った。
中澤 純一	「社会正義の実現」を視点とした移民学習の教材開発
	本研究では、「社会正義の実現」を視点として移民学習の教育的意義を再考し、マジョリティである日本人児童生徒の意識変革を促す、教材開発を行うことにより、学校教育に寄与することをめざす。
野澤 義隆	夫婦における親密性と結婚満足度との関連
	夫婦の親密性と結婚満足度との関連を検討することを目的とした。まず，夫婦の親密性に関する文献を整理し，親密性の概念を検討した。また，親密性と結婚満足度との関連について，文献を整理した。

氏名	申請題目・研究内容
橋元 知子	大学生の言語知能に関する意識の分析と考察
	本研究では Lou & Noels の Language Mindsets Inventory を日本語版に改良した Kashimura & Hashimoto の J-LMI を用い、大学生の意識を調査する。
埴田 健司	ロマンティック・レッド現象の性差と自動性
	着用している服が赤の場合と緑の場合で、着用者の魅力が異なるかを検討した。結果、配偶者獲得動機が強い場合、緑を着用したほうが魅力が高くなっており、ロマンティック・レッド現象とは逆の影響がみられた。
真家 英俊	異なる運動強度による持続的運動のストレス軽減効果について
	ストレス応答のメカニズムには自律神経系、免疫系、内分泌系などが関与していることから、ウォーキングなど運動強度の異なる持続的運動を行い、そのストレス軽減効果を唾液 α-アミラーゼ等の指標を用いて検証した。
森下 一成	伴侶動物飼育者の生活と看取りに関する意識調査
	伴侶動物(ペット)の「家族」化が進行している現代、その看取りがどのように行われているのか、高野山大学研究者からの指導・助言を得ながら調査を進めた、結果は来年度秋以降に日本比較文化学会『比較文化研究』で発表を企図している。
森下 一成	西新井大師周辺の地域資源開拓と事業者との連携
	本研究の目的は、2025 年度プロジェクトゼミが実施する新商品開発について、連携する和菓子店のマクロマーケティング環境ならびに商品戦略を分析し、西新井大師門前町に相応しいコンテンツの探求にあった。調査・研究は学生の開発コンセプトに生かされ、新商品「いろは饅頭」が 3 月末に発売される予定である。
横地 早和子	創作活動の継続要因の検討
	芸術家は創作活動を継続するために、どのように外的資源や社会的関係性を利用しているのか？個人レベルの創作活動、ワークショップ等が、集団や社会レベルの活動とどのように関わり合っているのかを調査する。
横畑 泰希 板川 知央	療育者に求められるスキルに関する質的調査
	療育が児童発達支援事業として確立され、事業所の拡充が進む中、療育者として充実する者の専門性は様々である。療育者としての求められる専門的スキルとは何かについて、現場職員のインタビューを通して明らかにしていく。
山﨑 善弘	The Formation, Development, and Contemporary Implications of Japanese-Style Capitalism: Insights from Japan's Historical Monopoly Systems
	近世から近代にかけて展開した日本の専売制研究を通じ、日本資本主義は欧米モデルの単なる受容ではなく、「日本型」と呼ぶべき独自の形成と発展を遂げたこと、またその歴史的特性を明らかにした。

編集後記

令和 7 年度東京未来大学特別研究助成金（研究費加算）研究成果報告会は，活発な意見交換が行われ，発表者，参加者ともに充実した発表会となりました。今年度も研究推進委員会の活動にご協力いただき大変ありがとうございました。委員一同心より御礼申し上げます。最新号，どうぞご味読のほどよろしくお願いいたします。

研究推進委員　川口めぐみ・田澤佳昭